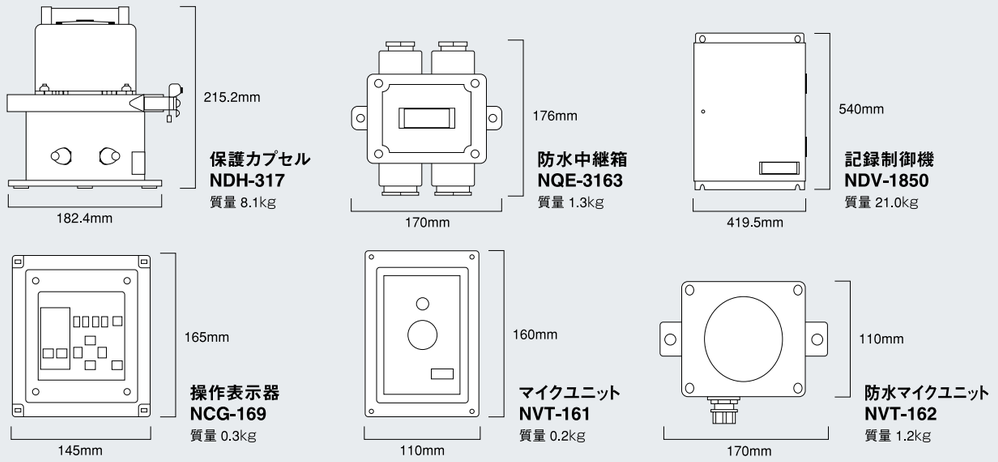
JCY-1850　仕様

外形図



国際規格	
IMO MSC163（78）、IEC61996-2、IEC61162-1、-2（NMEA0183及びNMEA0183-HS）、IEC60945他	
保護カプセル	
記録データ	必須項目: 日付、時刻、船舶位置、船速、船首方位、船橋内音声、レーダ画像、VHF通信音声、AIS情報（レーダ画像取出不可の場合） IEC61162（出力可能な場合のみ）: キール下水深、船橋アラーム、操舵指令・応答角度、操機指令・応答、防火扉・防水扉の状態、船体開口部の状態、加速度と船体応力、風速・風向　他
記録時間	連続12時間以上のデータ
データ記録周期	1秒以下、（レーダ画像:15秒周期）
データ保持期間	2年以上
環境条件 （固定型カプセル）	耐火;1100℃ 1時間、260℃ 10時間、 耐水圧;6000m深海で24時間　他
センサ接続入力ポート	
マイク入力	9ポート
VHF音声入力	3ポート
IEC61162-1&-2	16ポート
NSK	Synchro / Step / Pulse
レーダー（オプション）	RGB
アナログ（オプション）	32ポート（最大）
接点信号（オプション）	256ポート（最大）
電源電圧	
AC 100/110/115/120/220/240 V, 50/60Hz	

標準構成品

名　称	型　名	数量
保護カプセル	NDH-317	1
防水中継箱	NQE-3163	1
記録制御機	NDV-1850	1
操作表示器	NCG-169	1
マイクユニット	NVT-161	3
スペアパーツ	7ZXJD0080	1
プレイバックソフトウェア	CYC-315（事故調査官用）	1
プレイバックソフトウェア	CYC-316（ユーザ用）	1

オプション構成品

名　称	型　名	数量
防水マイクユニット	NVT-162	2
画像ボードキット（レーダ画像用）	7ZZJD0052	1
2画像キット	7ZZJD0055	1
防水アジロ外装LANケーブル	7ZCAF0200	30m

※外観・仕様などは、予告なく変更することがあります。

⚠ 注意　正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

JRC 日本無線株式會社

JRCウェブサイト　http://www.jrc.co.jp/

本社事務所　〒160-8328 東京都新宿区西新宿六丁目10番1号　日土地西新宿ビル
海上機器営業部　☎（03）3348-2351（ダイヤルイン）

北海道支社　〒060-0003 札幌市中央区北3条西7-1　北海道水産ビル　☎（011）261ー8321（直通）
東北支社　〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-9-8　田山ビル　☎（022）225ー6833（直通）
中部支社　〒460-0008 名古屋市中区栄2-6-1　白川ビル別館　☎（052）203ー1225（業務課）
関西支社　〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-28　☎（06）6344ー1633（直通）
九州支社　〒812-0025 福岡市博多区店屋町1-31　ダヴィンチ博多　☎（092）262ー2141（直通）
三鷹製作所　〒181-8510 東京都三鷹市下連雀5-1-1　☎（0422）45ー9111（案内）

釧路　稚内　函館　帯広　青森　八戸　秋田　盛岡　福島　さいたま
新潟　金沢　福井　静岡　焼津　神戸　高松　高知　広島　山口　松江
長崎　鹿児島　宮崎　熊本　大分　那覇　シアトル　アムステルダム
ニューヨーク　ジャカルタ　マニラ　台北　ハノイ　アテネ　シンガポール

33JM　R100　PRINTED WITH SOY INK

ISO9001, ISO14001 認証取得

2006年8月作成

© 2006.8　CAT.No. Y14-203（No.776-1-3）D

JRC

簡易型航海データ記録装置

JCY-1850

- JRC独自の高信頼設計
- シンプル配線・優れた装備性
- PCによる外部記録機能（180Gバイト:60日間）
- 操作が容易なプレイバックソフトウェア
- ワールドワイドサポート

JRC 日本無線

JCY-1850 簡易型航海データ記録装置

JCY-1850はIMO（国際海事機構）、SOLAS（海上人命安全条約）第V章　規則20で定められたS-VDR（簡易型航海情報記録装置）です。その機能はVDR（航海データ記録装置）と同様に船のブラックボックスとも呼ばれ、衝突・沈没などの海難事故発生の際に本船から回収して、速度・船橋内の会話・VHF通信音声などの航海情報を読み出して、事故原因の究明に活用されます。S-VDRはSOLASの規定により3000トン以上の既存貨物船への搭載が義務付けられています。

◎搭載要件

国際航海に従事する船舶	装備要件
20,000GT以上の既存貨物船	2006年7月1日以降2009年7月1日までの最初のドライドック
3,000GT以上20,000GT未満の既存貨物船	2007年7月1日以降2010年7月1日までの最初のドライドック

JCY-1850 高信頼設計

JCY-1850はJRCの最新技術を結集して設計された高信頼装置です。

独自技術

JRCのS-VDRは今まで培った海上機器装置の豊富な経験と独自の技術を活かした高信頼装置です。ハードディスク等の可動部分を持たない為に大幅に信頼性が向上しました。また、パーソナル・コンピュータ等の一般品に頼らない独自の設計・製造により保守部品の長期対応も可能になりました。

組込用リアルタイムOSの採用

信頼性・保守性向上および広い拡張性のために工業用機器組込リアルタイム・オペレーション・システム（OS）を採用しました。工業用を採用することで安定作動が実現できました。

ワールドワイドサポート

JRCのVDR/S-VDR認定工事業者ネットワークにより、ワールドワイドな装備工事及び年次検査が可能です。

保護カプセル

保護カプセルは固定型と浮遊型を選択できます。固定型、浮遊型共にデータ記録装置はVDRで世界トップシェアを誇る「L3」製を採用しました。「L3」製データ記録装置は小型、軽量で装備場所を選びません。

JCY-1850 各種機能

JCY-1850はカプセルに12時間以上のデータを記録し、プレイバックソウトウェアにより記録データが再生可能です。（IMO SN Circ.246規則対応）

優れた装備性

既存船に容易に装備できるようS-VDRに必要な全てのインターフェースを記録制御機にまとめ小型・軽量を実現しました。また、拡張性も考慮しレーダーボード（オプション）の追加も容易です。
さらに独立した小型操作表示器は離れたところで容易に状況確認やアラーム表示が確認できます。

プレイバックソフトウェア

JCY-1850には記録データをパーソナル・コンピュータで再生できるプレイバックソフトウェアを標準装備しました。記録したデータを数値やグラフィックで参照することが可能です。
さらに、プレイバックソフトウェアには記録データのCSVファイル変換ソフトウェアが標準で組み込まれております。この機能を利用することで記録データを容易に陸上へ電子メール等で送信したり、汎用表計算ソフトで集計やグラフ化が出来、運航データの解析に有効です。

外部記録機能

S-VDRに標準装備されているネットワーク機能を利用することで、お客様支給のパーソナルコンピュータ（PC）とHUBにより最大4台のPCで記録データを共有可能です。また、このネットワーク機能により、このPCに12時間以上のデータが記録可能です。（24時間の記録データは約3Gバイト。）

◎接続機器